

軍極秘

武中調査系力敵

第十特別根據地隊機密第二號ニ

自昭和十七年一月十五日
至昭和十七年一月三十一日

月

日送付

第十特別
根據地隊
司令官印

第十特別根據地隊戦時日誌

(作戦及一般部)

役務	所屬
作戦部	第一南遣艦隊
隊	

0441

0441

目次

- 一 経 過
- 二 人員ノ現状
- 三 令達報告等
- 四 参 考
- 五 作戦経過概要

0442

自昭和十七年一月十五日
至昭和十七年一月三十一日
第十特別根據地隊戰時日誌

一 經過

(イ) 一月十五日附第十特別根據地隊編成 司令官 副官 兼 參謀及參謀一補職發令セラル

(ロ) 司令官 副官 一月二十日官用機便ニ依リ東京發臺北三重ヲ經テ一月二十四日西貢ニ進出ス

(ハ) 爾後西貢ニ在リテ車ヲ縮成竝ニ昭南進出準備從事ス

(ニ) 先遣隊ハ西貢ニ待機中

二 人員現狀

(イ) 第十特別根據地隊

(ロ) 職員官氏名

0443

1978

死亡

(二)

職	主務官氏名	記
司令官	少將 奥 信一	(月十五補職)
副官兼參謀	副官 少佐 日比野 寛三	同 (月十五補職)
同	同 飯田 美照	(月十五補職)
參謀	工機 同 機少佐 松崎 義森	(月十五補職)
軍醫長	醫中佐 村田 三郎	同
主計長	主中佐 中山 清市郎	同
隊 附	醫中尉 河野 通文	同
同	主中尉 黒川 晃	同
下士官兵及其他員数		
兵種	兵科	機関科
員数	。。	。。
看護科	主計科	傭人
計		
記事	(月十五附旧機務乗員十二名臨時十特根附ラ合セラレモ未輸入)	

0444

十七、一

別表第二

作戰經過概要

昭和七年八月

第十特別根據地隊

日	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
所	東京							京
在								
任	第一特別根據地隊							遺
務	新編							
任								
務								
主要行動								(司令官司令部同西面三向東京發空便)
主要作業	業務成							
記事								

0445

三八	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三
貢						西		
隊 艦								
							司官西首看	
業 編 務 成						一司官一歩長官同狀 二編成業務		

0446

4.

日	一	二	三	四	五	六	七
在所	西貢						
氣象 天候 風向 風速 湿度 視界(料) 至四時 至六時 至八時 至十時							
一般	第一						
任務	業務成績						
特別							
主要行動							
主要作業							
記事							

司令官以下第一
次進出部隊八班
司令官以下第二
着直後第三
夜半新嘉坡西水
路第十八師團新

作戰經過概要 昭和七年二月 第十特別根據地隊

0447

二	一	七	八
ア	ル		ノ
進		南	
進		出	進

（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着
（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着
（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着
（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着	（一）松崎参謀陸軍ト 連絡並ニ情况視察 ヲ為シヨルハルニ出 張即日飯着

0448

五	四	三	二
昭		ノ	

隊	艦
業 作 興 復	備

一、松崎參謀連務局 二、果ては二、三張即日 販着 三、司令官以下明十四日 四、果ては二、三張 五、決ス		一、司令官以下明十四日 二、果ては二、三張 三、決ス	
一、司令官以下明十四日 二、果ては二、三張 三、決ス		一、司令官以下明十四日 二、果ては二、三張 三、決ス	
一、司令官以下明十四日 二、果ては二、三張 三、決ス		一、司令官以下明十四日 二、果ては二、三張 三、決ス	
一、司令官以下明十四日 二、果ては二、三張 三、決ス		一、司令官以下明十四日 二、果ては二、三張 三、決ス	

0449

	六	七	八	九	〇
	南			軍	

作戦資料調査海軍任務面防

司令官「セレー」 飛行場視察	（新嘉坡軍事地） 設接收本部司令松 何來謀派連 （本林主計中佐「セレー」 共六名「付」セレー 飛行場を上空同航 行場占領	（新嘉坡南港） 長官及南方海軍司 令官「勃」ヲ賜 （高隊司令官「二」周係 各隊已處「付」セレー 司令官「中」請 三「ハ」ハ「攻」各成	司令官「セレー」 飛行場視察	（陸軍ニ押収兵器 並ニ自動車ヲ讓 渡方要求ヲ提 示ス	（E「航」軍關係調 査員二名未着	司令官「セレー」 飛行場視察	（陸軍兵英「字」庫敷 名ヲ連行他雷敷設 地域ヲ散示処分 行	（E「ハ」備内閣係調 査員六名未着	司令官「セレー」 飛行場視察	（構内棚外一行以内 支那人部「落」有檢 索ヲ行	（陸軍ヨリ「ガ」リ「ロ」ラ 出「一」〇〇讓受 （第五軍司令部「十」特報 司令部直通電話 間通ス	司令官「セレー」 飛行場視察	（海岸方面地雷 處分ヲ行	（七海隊司令官「業」務 月「二」二周係ヲ指揮シ 得「コ」トニ弁令
---------------------------	---	---	---------------------------	---	-----------------------------	---------------------------	--	------------------------------	---------------------------	--	--	---------------------------	-------------------------	---

0450

6

二五	二四	二三	二二	二一
----	----	----	----	----

港

--	--	--	--	--

海掃地泊及路水戒警備

			第九根據地隊水へ海岸方面地雷の 路掃地泊及路水戒警備 入港	海軍現地編定ニ 關シテ命令
	第一回五版令報 同催		海軍現地編定ニ 關シテ命令	海軍現地編定ニ 關シテ命令
三三部隊電令作 一五二號ニ依リ第二 掃海部隊留留明 丸音羽丸土肥留留 商隊指揮下ニ入ル	三三部隊電令作 一五二號ニ依リ第二 掃海部隊留留明 丸音羽丸土肥留留 商隊指揮下ニ入ル	三三部隊電令作 一五二號ニ依リ第二 掃海部隊留留明 丸音羽丸土肥留留 商隊指揮下ニ入ル	三三部隊電令作 一五二號ニ依リ第二 掃海部隊留留明 丸音羽丸土肥留留 商隊指揮下ニ入ル	三三部隊電令作 一五二號ニ依リ第二 掃海部隊留留明 丸音羽丸土肥留留 商隊指揮下ニ入ル

0451

二六	二七	二八
一、陸軍部池岸屋 附連掃海	一、第1南進艦隊 大部入港	
一、艦隊司令部 事務各課長 長官三同候	一、第1南進艦隊 本部各課長 長官三同候	一、南進司令部 渡辺揚陸隊司令 官三同候
一、艦隊司令部 生泊中、水三警 戒、防備要領 ヲ弁令ス	一、第1南進艦隊 本部各課長 長官三同候	一、第1南進艦隊 本部各課長 長官三同候

0452

武訓

十特根機密第二號、四

自昭和十七年三月一日
至同年三月三十日

軍極秘

第十特別根據地隊戰時日誌

(作戰及一般部)

六月一日送付

第十特別
根據地隊
司令官印

調査
17.7.29
接受

所屬所屬
第一南進艦隊
役務
作戰部
隊

0453

一	經	過	目次
二	人員、現狀		
三	令達報告等		
四	参	赤	
	(1) 戰	訓	
	(4) 寫	真	
五	作戰經過概要		

(目次終)

0454

一、經過

自昭和十七年三月一日
至三月三日

第十特別根據地隊戰時日誌

(一) 一般情勢

- (一) 昭南方面主水路、掃海完了以來馬末部隊各艦船及各種輸送船續々昭南軍港ニ入港人員、充實器材、到着ト相俟テ復興作業モ若況ヲ呈シ着々実績ヲ收メツ、アリ
- (二) 馬末部隊主力ハ前月下旬末昭南軍港ニ於テ補給休養等ニ當リ、(三) 作戰ヲ準備中、處上旬出撃ヲト作戰、支援ニ任シ中下旬畧之ヲ完了月下ニ作戰実施中ナリ
- (三) 當隊ハ(三) 作戰昭南根據地部隊トシテ担任区域、防備警戒交通保護並陸軍輸送船團、護衛水路啓閉等ニ從事シ、昭南海軍担任区域、復興作業ニ全カニ注ギツ、アリ
- (四) 昭南軍港ハ電灯水道及重油管等復旧ニ依リ漸次海軍根據地

0455

地トシテ、機能ヲ強化シ概ネ作戰部隊、補給休養ニ畧遺憾ナ
キ現狀トナレリ

(ロ) 敵軍、情勢

(一) 三月九日蘭印軍ハ我ニ無條件降服ヲ申出サタリ

(二) 「スラバヤ」及「バタビヤ」沖海戰ニ於テ我ガ捕促撃滅ヨリ免レタル敵

艦隊残存部隊ハ南西印度洋上ニ於テ我巡洋艦隊ニ撃滅セシメタリ

(三) 北「スマトラ」及「アングマン」所在敵軍ハ殆ド抵抗スルコトナク我軍門降リ

(四) 有カナル英國艦隊ハ「セイロン」島方面ニアルモ、如ク「アングマン」方面ニ毎

日敵飛行機一機程度ヲ偵察ヲ行ヒタリ我次期作戰ニ相當

敵言ヲ辨ヒツアルモ、ト認ム

(五) 「マラッカ」海峡方面ニ敵潜水艦出没スルモ行動積極的ナラス

(ハ) 任務、編制、配備
一、任務

0456

(一) 編制

- (1) 海軍担任海面防備警戒
- (2) 昭南島海軍担任区域復旧
- (3) 港務及交通保護
- (4) 味方通信中枢对敵通信
- (5) 近衛師團第三次上陸部隊ヲ昭南ヨリ「ベラワン」迄護衛
- (6) 「ベラワン」水路啓開
- (7) 工作及補給
- (8) 所在陸軍ト連絡

(1) T D U 作戦中ニ於ケル當隊兵力部署左ノ如シ

警戒隊	區分	指揮官	兵力	主要任務
昭南 第十港務部長			澳船六隻 拿捕舟艇	「ベラワン」及海軍担任海面防備警戒港務

0457

配
備

(1) 第十通信隊及第十港務部、八前月通、配備ナリテ固有任務ヲ續行ス

(2) 陸敬言科「巴夕」軍港地区及高港方面海軍担任区域兵力

(2) 七號掃海艇二五〇附當隊麾下二六〇昭南着

掃海隊	護衛隊	記事
根拠地	隊部	
司令	司令	
10月4日 護衛隊昭南出發迄	4月10日(三月三日以後)長	沙丸(三月三日以後)留腹丸
昭南附近航路及泊地	輸送船固護衛及	泊地掃海
20月4日 大弁二隻ヲ加フ	音羽丸大弁二隻	
清掃		
		朝日及二各廳ハ固有任務ニ從事
		第十通信隊ハ作戰終了迄第九特別根據地隊司令官ノ要求ニ応ジ通信ヲ援助ス

0458

(一)

作戦指導

(一) T D 及 山 作戦計画、要旨

ヲ増勢シ警衛ニ任ジツ、アリ
(2) 水警科ハ合手捕舟艇ヲ利用港内、警戒ニ當リツ、アリ

項 目	馬 未 部 隊	昭南根據地部隊
作戦目的	陸軍ト協同シ速ニ北部「スマタ」 「アデマ」諸島要地ヲ攻畧スルニ 緬甸攻畧陸軍部隊ヲ昭南ヨリ蘭 貢迄護衛シ緬甸攻畧ヲ容易ナ ラシムルニアリ。	昭南根據地部隊 機密馬未部隊命令作 ハ號ニ依リ第二次上陸部隊 ヲ「アデマ」上陸セシムルニ共速ニ作 戦基地トシテ昭南方面ヲ整備スニ アリ。
	(1) 先ツ北部「スマタ」要地ヲ攻畧シ 「バ」島ニ海軍航空基地ヲ設置ス (2) 次テ「アデマ」諸島要地ヲ攻畧シ海 面防	(1) 近衛師團第1次上陸部隊ヲ 「アデマ」迄護衛シ上陸セシム (2) 「セトラ」及昭南附近海面防

0459

(二)

作戰方針	軍航空基地及艦船基地ヲ設置ス 備警戒ニ任ズ (1) アタミニ攻畧作戰ト略同時陸軍ハ昭南附近水路沿地ヲ清掃ス 輸送船ヲ昭南(一部、彼南)ヨリ蘭(内)作戰基地トシテ速ニ作及補 貢迄護衛シ緬甸作戰ヲ容易ナ ラシム	給施設ヲ復旧ス
部隊	T.O.U. 作戰ニ於ケル昭南根據地部隊ノ任務行動概要	
警戒隊	任務 行動 大要	
	(1) 昭南港東口及西口ニ哨戒艇各一隻ヲ配備シ敵潜水艦ニ對シ警戒ニ任ズ (2) 入港艦船對シ水路指示當ル (3) 昭南商港外警戒艇ヲ待機セシメ敵潜水艦ノ襲撃ニ備ヘシム (4) 左ノ順序ニ清掃ヲ實施ス	

0460

12

(三)

各作戦概要
の防備

警戒隊ハ昭南東口及西口哨戒艇ヲ派シ警戒ニ任シツアリタル處三
月十七日「ゲッペル」西口ニ敵潜水艦出現浮上セルヲ弁見警戒中我三

掃海隊	護衛隊
a. 商港近道 b. 東口及西口敵敷設機雷清掃 c. 昭南港南方航路清掃 d. 「アサヒバス」西側水路啓開 (2) 第十港務部長ハ掃海水路ニ所要設標ヲ行フ	(1) 長沙丸ハ三月三日昭南弁近衛師團及軍直二部第 二次上陸部隊輸送船約十三隻ヲ「ワ」ニ護衛ス (2) 44 噸留井丸音羽丸大弁二隻ハ前號部隊入泊前「ワ」 水路ヲ啓開シ泊地ヲ掃海ス

0461

號哨戒艇ハ直ニ之ヲ攻撃爆雷枚射ヲ行ヒ之ヲ撃退シ其他特異
狀ヲ認メズ

(2) 掃海

三月十日昭南主水路一番浮標ヨリE浮標東五哩迄第一次清掃ヲ
完了拘提機雷ナシ(掃海中七〇米深度一七米)

三月十九日「ベラワン」泊地清掃及水路啓開完了ス泊地水路共ニ
拘提機雷ナシ

(3) 護衛

三月二十日昭南弁第二次上陸部隊ハ「ベラワン」ニ護衛無事上陸セシム
三月二十六日「ベラワン」弁右舷還船ヲ昭南迄護衛ス

(4) 船舶拿捕

機密馬末部隊命令第一。號ニ依リ第一。港務部員松岡中佐ヲ
指揮官トシ當隊及島海川内乗員ヲ以テ拿捕隊ヲ編成合手

0462

捕船「マハリ」及四五號艇「マラッカ」海峡方面ニ派シ敵性艦船搜索
拿捕ニ任ゼシム 成果左如シ

三五。丁曳船「海王」トラク「奔動」機船ニ交通船ニ

(3) 補給運輸

a. 1Kf機密三番電ニ基キ拿捕船「マハリ」及四號艇「ボマカット」派シ
在「レト」各廠関係人員器材ヲ昭南ニ輸送ス

b. 馬來部隊電令第六號ニ依リ「ミラマル」號ハ當分ノ間當隊司令官
指揮ヲ受ケ輸送任務ニ從事ノコトナレ

c. 1Kf機密六番電ニ基キ「ミラマル」號ヲ西貢ニ派シ第一航空艦隊
用航空燃料輸送ニ當ラシム

d. 1Kf機密六番電ニ基キ拿捕船「マハリ」號ヲシテ「マラッカ」海峡ニ尋礁
附近ニ漂流中ノ船渠扉搜索曳航ニ當ラシム

e. 第二十五軍ヨリ左記押収兵器交付ヲ受ク

0463

押収小銃(銃剣共)ニ〇〇〇、同彈藥ニ〇〇〇〇、押収輕機関銃一〇〇
同彈藥一四〇〇〇〇、押収重機関銃一〇、同彈藥ニ〇〇〇〇

(四)

馬末部隊交通保護担任区域

馬末部隊電令作第六三號ニ依リ左ノ通定メラル

(1) 第十一特別根據地隊(西貢)

「コタバル」「ホルネオ」北端ヲ通ズル線以北

(2) 第十特別根據地隊(昭南)

「コタバル」(含ム)「ホルネオ」北端ヲ通ズル線以南「カリマタ」海峽「カスバル」

及「バンカ」以北北緯三度線以南「マラッカ」

(3) 第九特別根據地隊(彼南)

北緯三度線以北「マラッカ」北緯一〇度線以南「ビルマ」海

(4) 第十二特別根據地隊(蘭貢)

北緯十二度以北「ビルマ」海

(ホ) 戦備及政策事項

(一) 防 備

(1) 昭南方面水上防備ハ敵施設ヲ利用シ之ニ若干補強ヲ加ヘルヲ針
尤モ補強ハ実施運ニ至ラズ拿捕船ヲ以テスル哨戒艇ヲ配備シ居ル
現狀ナリ

(2) 対空防禦不固敵施設ハ概ネ破壊セラレ軍港方面ニ於テハ利用シ得
ルモノ全然ナシ内地ヨリ運搬セルナニ榴砲四門ヲ「セレーター」飛行場ニニ五
耗機銃ニ基ラ當地ニ裝備コトシ目下工事中ナリ

(3) 護衛掃海ニ配シ得ル兵力ハ極メテ少ク概ネ特設掃海隊徴用船及拿
捕艇ヲ以テ之ニ充當ス一應水路及泊地掃海ヲ完了シタルモ尚舟艇
都合ニキ劣反復掃海ヲ実施スル予定

(二) 諸施設復興狀況

(1) 港湾施設

a. 港務部廳舎前ニ仮棧橋設置ヲ完了ス

b. 軍港「セレー」飛行場間ニ飛行艇繫留用浮標六個ヲ設置ス

c. 錨地「セレー」飛行場ヨリ「ジョホールバル」間主水路ニ沿ヒ五。米間隔ニ大型艦船錨地三五其両側適宜ノ位置ニ小型船舶ニ九計六四ノ錨地ヲ定メ各番號ヲ附ス

(2) 工作施設

a. 電力施設(昭南軍港)

軍政部助力ヲ得テ昭南市弁電所ヨリ約五。KVAノ送電施設ヲ急設スヨリ点灯一部動力使用中ナリ現在各方面ヨリ弁電裝置ヲ當地ニ集中シ可成速ニ工場全動力使用可能ナル如ク計畫中ナリ予想電カニ五五KVA

b. 工場内施設(昭南軍港)

最も被害大ナル機械工場整備ヨリ始メ遂次緩急順序ヲ定メ

0466

整備ス

工場機械中試運転結果良好ナルモ、相當アリ

c. 船渠（軍港商港）

軍港船渠門扉開閉裝置ハ完全ナルモ大排水ポンプ破壊セラレタル為、當分、間使用不可能

商港方面ハ第三船渠門扉附近ニ沈船アリ第四船渠門扉脱離行衛不明、為何レモ當分使用不可能其他ハ完全ニシテ第三船渠木ニ下旬鶴見ヲ入渠セシメ修理中アリ

d. 本月中ニ各部電話ハ概ネ復旧ス

e. 當面工作施設復興方針

昭南軍港及商港両者ニ就キ電力供給並ニ工作設備ヲ綜合研究結果モセシメ工廠復旧ニ相當ノ日子ト人員トラヒ西女トスルヲ以テ電力ノ供給工員補充容易ナル工作部第一第二造船

0467

所方面ヲ急遽整備シ艦船差當リ修理ハ昭南商港ヲ利用ス
ル適當ト認メ本方針下ニ復興ハ急キツマリ

(3) 軍需施設

a 昭南軍港炎上油槽ハ本月上旬消火ス重油管系ハ主管ニ於テ数箇
所枝管ニ於テ十数ヶ所破壊ス燒損シ居レル處極力之ガ復旧ニ
努メ本月下旬完成ス現在使用可能ノ重油槽容量里約一〇〇〇〇
吨現量約二七〇〇吨ニシテ岸壁横付補給可能現在貯藏可
能量五〇〇〇七

商港「ルマ」ン重油槽補給用應急施設(應急管ヲ導設)ハ
本月末完成商港地区ニ於テハ本月上旬ヨリ補給可能ナリ

b 兵器需品被服糧食等調査ハ各完了セリ

(4) 航空基地施設

a 飛行場爆破箇所及搔瀉等ハ修理完成シ第四航空隊便
用中ナリ

16

二 人員現狀(三月一日現在)

(1) 第十特別根據地隊

(2) 職員官氏名

職	主務官	氏名	記
司令官	少將	奥 信一	
副長兼參謀	大佐	山崎 貞直	二月十四日補職 三月二十日着任
副官兼參謀	副官	佐 飯田 美照	
副官通信	少佐		

b 滑り破損部修理ニ依リ使用可能
 c 「アイゼル」令電機六基中一基ニ復旧ス他調整中
 (3) 建築施設

a 軍港方面水道ニ主鉄管枝鉄管共ニ各修理ヲ完了一部ヲ除キ通水ニツキアリ
 b 「セクター」飛行場水道ニ三月十三日市ヨリ通水ヲ得完備状態ナリ

0469

同	同	同	同	同	同	隊	分隊	隊	分隊	主計	軍	參
	五分隊士	陸軍科附甲板 士官一分隊士	水警科長附 三分隊士	警衛科長防空 長三分隊長	庶務主任 七分隊士	正隊長職務 五分隊長	四分隊長	六分隊長	三分隊長陸軍 科長水警科長	七分隊長	六分隊長	謀略 軍輸
兵曹長	機特少尉	同	特少尉	特中尉	主中尉	工特中尉	機特中尉	医中尉	特大尉	主中佐	医中佐	機少佐
平野数市	德永豊作	松川勲	石川弥作	吉田信男	黒川晃	田邊直次郎	岡林茂	河野通文	井上吉次郎	中山清市郎	村田三郎	松崎義森
(二月十日補職) (三月六日附任特少尉)	二月十日補職 三月二日着任	二月十日補職 三月二日着任	二月十日補職 三月六日着任	二月十日補職 三月二日着任		同 右	三月十日補職 三月二日着任	(三月十六日附任軍医大尉)	二月十日補職 三月二日着任			

作戰經過概西女

昭和十七年三月

第十特別根據地隊

0471

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

八	七	六	五	四
南				
南				
面 海 任 担				

有杉園等港務部員ヲ 指揮官トシ金浦船ヲハ 号及同五ノ船ヲミツク海 峽方面ニ回ルル。 一、戰隊龍驤九駆逐隊 昭南軍港入港、昭南軍港 驅逐隊ヲ派ス。 二、日米九駆逐隊、馬込潛 艇ヲ派ス。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。
昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。
昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。
昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。
昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。	昭南島市內指定区域、立入 禁止、發令。

0472

二	0	九	
---	---	---	--

軍

禮

泊、及路水戒警備防

第七朝洋丸第五海洋丸 九二押收共餘之員共七〇	九二押收共餘之員共七〇 三押收共餘之員共七〇 四押收共餘之員共七〇 五押收共餘之員共七〇	陸軍科ノテ分隊ヲ設ケ 市ニ海軍士病院ニ泳シ病 院長指示ヲ受ケム 三水監料ヲテ第十港務 部長官署ニテ令ヲ捕船 救護備五箇ラシム 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス	三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス	三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス	三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス	三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス	三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス 三昭南ニ水路ヲリケル 港ニテ水路ヲ開定ナス
-----------------------------------	---	---	--	--	--	--	--

-0473

一	二	三	四	五
---	---	---	---	---

港

隊

船

地掃海陸軍諭送船固

		一、護衛隊二、ラハル 三、ミラマシ及ミタリ ネオ「方面」関係員 送付「ボマンカ」ニ 向ケテ	「ミミ」ミタリ「ボ マンカ」ト着
一、水路「番」 二、東五産「第一」 次清掃完了	一、東五産「番」 二、金「船」各「配」 令「兵」 三、合「船」 四、兵「増」 五、兵「増」	一、護衛隊「番」 二、行「方」 三、行「方」	一、南軍港東口「材」 二、近「成」 三、水「科」 四、水「科」 五、水「科」
一、馬「部」 二、区「令」		一、捕「使」 二、捕「使」 三、捕「使」 四、捕「使」 五、捕「使」	一、中「攻」 二、中「攻」 三、中「攻」 四、中「攻」 五、中「攻」

0474

二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇
一、四時小隊昭南軍港着入 二、五時掃海艇速昭南軍港 三、回航方弁令ス 三、三三三「マル」号昭南軍 港着入一七。	一、四時小隊昭南軍港着入 二、五時掃海艇速昭南軍港 三、回航方弁令ス 三、三三三「マル」号昭南軍 港着入一七。	一、官房松崎四八番電三三 定航艇空輸送南談、タメ 準備航空軍艦龍風号 九、昭南各「マル」号向フ 一、四時小隊掃海艇入港	一、官房松崎四八番電三三 定航艇空輸送南談、タメ 準備航空軍艦龍風号 九、昭南各「マル」号向フ 一、四時小隊掃海艇入港	一、官房松崎四八番電三三 定航艇空輸送南談、タメ 準備航空軍艦龍風号 九、昭南各「マル」号向フ 一、四時小隊掃海艇入港	一、官房松崎四八番電三三 定航艇空輸送南談、タメ 準備航空軍艦龍風号 九、昭南各「マル」号向フ 一、四時小隊掃海艇入港	一、官房松崎四八番電三三 定航艇空輸送南談、タメ 準備航空軍艦龍風号 九、昭南各「マル」号向フ 一、四時小隊掃海艇入港	一、官房松崎四八番電三三 定航艇空輸送南談、タメ 準備航空軍艦龍風号 九、昭南各「マル」号向フ 一、四時小隊掃海艇入港

0476

[illegible]

0477

佐

一
九
一
七

軍極秘

第十特別根據地隊機密第二號五

昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三十日
一月一日送付

第十特別根據地隊戰時日誌

(作戰及一般部)

所管所屬	第一南遣艦隊
役務	作戰部
	隊

17.6.30
換

0478

目次

- 一、經過
- 二、人員現狀
- 三、令達報告等
- 四、參戰
訓考
- 四、寫真
- 五、作戰經過概要

(目次終)

0479

自昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三十日

第十特別根據地隊戰時日誌

一 概 況

- (一) 南方部隊機動部隊航空部隊ハ本月初頭
(作戦)南方部隊第三次機動作戦ヲ實施英甲
巡二隻撃沈ヲ始メ多數ノ敵船舶ヲ撃沈破シ赫
々タル戦果ヲ收メタリ
- (二) 印度獨立運動ハ帝國海軍ノ印度洋作戦ニ呼應
益々熾烈化シ英特使ハワードクリップスノ努力ニ
拘ラス會談ハ遂ニ決裂ス
- (三) 中旬及下旬當隊ハ麾下艦船ノ全兵力ヲ擧ゲ
テ此作戰陸軍第三次及第四次輸送船團ヲ

0480

彼南西方海面迄護衛シ爾後任務ヲ彼南根據地部隊ニ引継グ

(四) 四月十日附第二段作戰第一期兵力部署發令但シ南方部隊ハ第一段第四期作戰ヲ續行ス本日對南西方面艦隊編成セラレニ三南遣艦隊其ノ麾下ニ入ル

敵軍ノ情勢カ

一 我ガ第三次機動作戦、大戦果ニ依リ印度洋方面、英國艦隊ハ概ネ屏息ノ状態ニアルモ、此モ非占領地区ヲ基地トスル英飛行機數回ニ亘リアラダマシ方面ヲ空襲我ニ若干ノ被害マリ

二 敵米機動部隊ハ我ガ虚隙ヲ覷ヒツツアリシ處ニ十八日本那東海岸ニ現ハシ申譯的空襲ヲ行ヒ

タルモ我が防空陣、撃退セラレタリ

四四月十日、フィリッピン、バタニ半島、敵米軍四万、我降伏ス

ハ任勢、編制、配備

ハ任教力

ハレタリ及北南方面、海軍担任海面、所備警戒

ハ交通保護

ハ昭南附近水路、掃海

ハ昭南方面、味方通信中樞、対敵通信

ハ工作及補給

ハ所在陸軍と連絡

(二) 編制

(1) 四月九日附 附機密第八八番電ニ依リ、一各
廳ニ付スル指揮ヲ解カル

(2) 四月十日附 第二段第一作戰(自四月十日
至五月下旬)ニ於ケル
馬末部隊兵力部署發令 昭南根據地部
隊、兵力尤、如シ

第十特別根據地隊(第一警備隊欠) 朝日
四掃海隊 鐵備澳船四隻

(3) 四月十六日附 馬末部隊電令 作第一五號ニ
依リ、第一掃海隊 當隊ニ編入セラル

(三) 郵備

(1) 第十通信隊及第十港務部ハ前月ニ通
郵備ニテ、國有任務ヲ續行ス

水作戦指導
の防備

備ミツリ

- (2) 麾下艦船ハ船團護衛及水路並ニ泊地掃海ニ任
シ一部ハ入渠修理ニ従事ニツツアリ
- (3) 陸水警科ハ海軍担任区域ノ防備警戒配

(三) 掃海

昭南東口及西口ニ哨戒艇各一隻ヲ派シ警戒ニ任
セシムル傍ラ入港艦船ノ航路指示ニ當ラシム

- (1) 四月三日第一掃海隊ハ昭南主水路十五番浮
標ヨリC浮標線ニ副ッ六〇米ノ清掃ヲ完了ス
一八米深度ニテ拘連機雷ナシ

(2) 四月七日ヨリ十日ニ至ル期間第四十四掃海隊ヲ

シテ昭南主水路C及F浮標間航路附近浮流
機雷ノ虞今ヲ行ハシム

三) 護衛

1) 四月十三日昭南商港發、此作戰第三次輸送
船團三隻ヲ 10449 長沙丸 西刈 = 依リ彼南
西方海面迄護衛シ彼南根據地部隊ニ引
繼リ

2) 四月二十二日昭南商港發、此作戰第四次輸送
船團十四隻ヲ第四掃海隊ニ依リ彼南西方
海面迄護衛シ彼南根據地部隊ニ引繼リ

3) 其ノ他數回ニ亘リ担任防護海面内艦船護
衛ニ任ズ

四) 船舶拿捕

0485

25.
下旬第一回航班江川豫備歩兵ヲ指揮官トシ船
舶拿捕隊ヲ編成拿捕船マタハリ及水敵等
十二號艇ヲ昭南海峽方面ニ派シ敵性艦船搜
索拿捕ニ任セシム成果尤ノ如シ

西補給運輸
七〇匹内火機関付貨客船一 三五匹並汽機関
付雜船一 運兵貨艇一 モーターボート三

(1) 1KF機密六〇三番電ニ基キ拿捕船マタハリ號ヲ
シテマラツカ海峽一尋礁附近ニ漂流中ノ第一
造船所第四船渠用扉ヲ搜索曳航セシム
(2) 中旬ミラモール號ヲシテ一軍需部關係糧
食ヲペヤシニ輸送セシルト共ニ拿捕船(曳船)
ヲ九特根ヨリ受領昭南軍港ニ曳航セシム

0486

戦備及政策事項

一 第一南遣艦隊機密第九六番電ニ依リ二千五戦機銃四門(二聯装二基)ヲ撤去シテ其地部隊ニ送付ス

二 十四日「セレー」飛行場防空砲台据付ヲ完了ス

三 三旬第一海上護衛隊司令部舎関係設置着手ス

四 訓令ニ依リ第十通信隊無線送受信所仮施設

工事中

0487

自昭和十七年五月一日
至同年五月三十一日

第十特別根據地隊戰時日誌

一 経過

(1) 一般情勢

(一) 初旬我M0攻畧部隊南洋部隊艦艇及基地航空部隊ハ
珊瑚海ニ敵英米聯合有カナル艦隊ヲ捕捉攻撃シ其大半ヲ撃チ
滅赫タル大戦果ヲ收メタリ

(二) 西南太平洋及印度洋方面、制海権ヲ失ヘル敵ハ我ガ虚隙ヲ覘ヒ
航母遊撃戦術及潜水艦ニ依ル我ガ海上交通路破壊ニ全カヲ注ギ
ツアルモ、如ク當隊担任海面ニ於テモ敵潜水艦ニ依ル朝日喪失其
他若干、被害アリ

(三) 五月七日比島「コレド」要塞陥落ス

(四) 五月二十日第二段第二期兵力部署發令セラル

0488

(ロ) 敵軍情勢

(一) 敵ハ我ガ警戒虚隙ニ乘ジ我ガ要ヲ対スル機動部隊ノ強龍衣ヲ企圖シアル算大ニシテ珊瑚海ノ戦以後モ残存部隊ト覺シキモノ我作戦海面ニ出沒シツアリ

(二) 敵潜水艦ニ依ル交通破壊戦ハ漸ク熾烈化セントス

(三) 印度洋方面英軍ハ積極的企圖ハ有セサルモ、如キモ前月初頭ノ我が機動作戦以後艦艇航空機共相當ニ増強セラレツルモノト認ム

(ハ) 任務編制配備

一 任務

(1) セレソ及昭南方面海軍担任海面防備警戒港務

(2) 交通保護

(3) 昭南附近水路掃海

(一)

編 制

(1) 昭南方面味方通信中枢対敵通信
 (2) 補給治療
 (3) 所在陸軍トノ連絡
 (4) 五月二十日附第二段第二期作戰ニ於ケル昭南根據地部隊兵

カ左ノ如シ

第十特別根據地隊(第一警備隊欠)第四掃海隊
 (2) 五月五日附馬來部隊信電令作第四號ニ依リ音羽丸留
 萌丸當隊ニ編入セラル

(三) 配 備

(1) 前月ト同様ノ配備ナリ各廳部隊固有任務ヲ續行ス
 (2) 巨部隊信電令第四號ニ基キ中旬以降第十通信隊ヲシテ
 第二海上護衛隊ノ通信實施ニ與シ協力セシム

(二)

作戦指導

(一) 防備

昭南東口及西口哨戒艇各一隻ヲ派シ警戒ニ任セシムル傍ヲ入港艦船航路指示ニ當ラシム

(二) 掃海

(一) 五月六ヨリ十日ニ至ル期間第四掃海隊ヲシテ商港「ベンデラ」岬南西方検疫錨地掃海ヲ行ハシムト共ニ附近浮流機雷處分ニ任シム

(二) 音羽丸、留朋丸ヲシテ五月八ヨリ十一日ニ至ル期間(四)浮標以南「ミツカ」海峡掃海浮標ヲ全部撤去スルト共ニ附近浮流機雷處分ニ任セシム

(三) 中旬第一掃海隊ヲシテ東水道北口味方潜水艦敷設機雷清掃ヲ実施セシム(二十日終了)

0491

(三) 護 衛

麾下艦艇ニ依リ數回ニ亘リ担任防護海面内護衛ニ任ズ

(四) 船舶拿捕

中旬第一港務部附三角豫備大尉ヲ指揮官トシ船舶拿捕隊ヲ編成拿捕船「マタハリ」ヲ「エシダウ」方面ニ派シ敵性艦船ヲ拿捕回航セシム成果存如シ

砲艦三隻(三五。七及二五。七)弁動機船二隻

(五) 補給運輸

下旬ヨリ中旬ニ至ル期間「ミマル」號ヲシテ。関係員器材等ヲ「ポートブレイヤー」ニ輸送セシム

(六) 戰備及政策事項

官房機密第三三六番電ニ依ル訓令工事中第一分遣隊関係第一分遣隊六。五發電機ヲ除ク外五月十日迄裝備完了

0492

人員現狀

(一) 第十特別根據地隊

(二) 職員官氏名

職	主	務	官	氏	名	記	事
司令官			中將	奧	信一	五月十四日	軍中將
副長兼參謀	首席參謀	戰	大佐	山崎	貞直		
副官兼參謀	副官	通信	少佐	飯田	美照		
參謀	機関運輸	複補給	機少佐	松崎	義森		
輝隊長兼	軍医長兼第六隊長	医中佐	村田	三郎		8/28	

- (三) 所信令第三三號基キ。各廳長ラ区處シ第海軍護衛隊司令
部事務所並ニ附属宿舍ヲ設営ヲ行フ
(三) 機密第二南遣艦隊司令第十六號基キ在昭南。各廳ラ区處シ第一
南遣艦隊司令部陸上事務所並ニ附属宿舍ヲ整備ス